

南海トラフの巨大地震モデル検討会について

平成23年8月

内閣府（防災担当）

1. 趣旨

中央防災会議「東北地方太平洋沖地震を教訓とした地震・津波対策に関する専門調査会」中間報告を踏まえ、南海トラフの巨大地震である東海・東南海・南海地震について、新たに想定地震を設定していくためには、これまでの科学的知見の整理・分析が不可欠である。

そのため、過去に南海トラフのプレート境界で発生した地震に係る科学的知見に基づく各種調査について防災の観点から幅広く整理・分析し、想定すべき最大クラスの対象地震の設定方針を検討することを目的として、理学・工学等の研究者から構成される検討会を設置する。

2. 検討課題（案）

- 東海・東南海・南海地震に係るこれまでの研究成果の整理
- 東北地方太平洋沖地震の研究成果の活用
- 東海・東南海・南海地震の新たな想定地震の設定方針
- 東海・東南海・南海地震の地震動・津波高さ等の推計

3. 今後のスケジュール

- 12月頃を目途に中間とりまとめ（想定震源域・波源域の設定の考え方等）
- 平成24年春に予定されている文部科学省地震調査研究推進本部による南海トラフの地震の長期評価の検討を反映
- その後、東海・東南海・南海地震の新たな想定地震の設定方針、地震動・津波高さ等の推計結果のとりまとめ